

佐高・国際人ファイル

ロシアへのバレエ留学報告会



①レッスンをアレンジした踊り

②サタネラのバリエーション

③エスメラルダのバリエーション

ロシアの「ワガワ・バレエ・アカデミー」に、昨年9月から10ヶ月の予定で留学中の岡村咲良さん(2-1)が一時帰国しました。そこで、2016年1月28日(木)7限目に、高校2年生を対象に「バレエ留学報告会」を行いました。

岡村さんは体育館のステージで踊りを披露するとともに、植木望友さん(2-2)のナレーションで、海外で体験したことや、アカデミーでの生活の様子、留學生活の中で感じたことなどを紹介してくれました。演目は、①普段行っているレッスンを岡村さんがアレンジしたもの、次に、純白の舞台衣装に着替え、難易度が高い②「サタネラのバリエーション」、最後に、鮮やかなライトブルーの衣装で、見せ場も多いコンクールの定番である③「エスメラルダのバリエーション」の三つでした。

生徒たちは、華麗に踊る同級生の姿に魅了され、海外で活躍する岡村さんの体験談に聞き入っていました。また、「国際人」としてがんばっている姿に、大きな刺激を受けました。

Q1 バレエ学校での授業について教えてください。

- ・学校は月曜から土曜まであり、休日は日曜日だけです。朝9時からロシア語の授業が始まります。午後は13時からクラシックバレエのレッスンを生ピアノの伴奏で2時間半みっちり行い、その後は「デュエット」「アクト(表現力や演技力)」「キャラクターダンス(民族舞踊)」の授業が日替わりで行われます。

Q2 ロシアの生活で不安なことはありますか。

- ・レッスン中に先生がロシア語で注意してくれますが、意味が分からないことがあります。しかし、周りの生徒が手で違うところを直してくれるので大丈夫です。また、生活面でも、親から離れて何もかも自分でやらなくてはならないので大変ですが、自立への第一歩なので、とても良い経験だと思います。

Q3 ロシアで学んで良かったことは何ですか。

- ・まず、世界的に有名な先生や憧れだったダンサーから直接指導していただけることです。また、留学生寮では、フィンランド、ハンガリー、イタリア、スペインなど様々な国の人がおり、家族のような関係になります。そこでは、栄養管理などプロ意識の高さを学びました。世界最高峰のバレエ学校での生活は厳しいですが、留学できて本当に良かったと思っています。残りの5ヶ月もしっかり学んで来ます。

